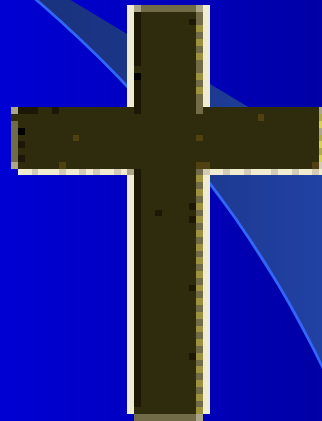


第一コリントの信徒への手紙クラス
「十字架の言葉は神の力です」

第一コリント1:18



東京キリストの教会

クラス 5

パウロとコリントの教会との複雑な関係

1 3 章 : 愛の道



1 4 章 : 霊的な賜物を生かす

1 5 章 : イエスの復活の力

1 6 章 : まとめの言葉

パウロとコリントの教会との複雑な関係

1) 最初の訪問、教会の設立

50 A.D. から約一年半滞在した

(使徒18:11) パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

2) 最初の手紙 (残されていない)

(第一コリント5:9) わたしは以前手紙で、みだらな者と交際してはいけなと書きましたが、

3) 二回目の手紙 第一コリントの手紙

パウロとコリントの教会との複雑な関係

4) テモテを代わりに送る

(第一コリント 4 : 17) テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。。。

影響はあまりなかったようです

5) 悲しませた訪問

(第二コリント 2 : 1) そこでわたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。

パウロとコリントの教会との複雑な関係

6) 三回目の手紙： 厳しい手紙、又は涙の手紙
テトスが手渡しした。トロアスでテトスに
会って報告を受ける予定だったが会えずに終わ
りとても不安で心配な状態

(第二コリント 2 : 4) わたしは、悩みと愁いに満ち
た心で、涙ながらに手紙を書きました。

(7 : 8) あの手紙によってあなたがたを悲しませたと
しても、わたしは後悔しません。

(2 : 12 - 13) わたしは、キリストの福音を伝える
ためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのた
めに門が開かれていましたが、兄弟テトスに会えな
かったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げ
て、マケドニア州に出発しました。

パウロとコリントの教会との複雑な関係

7) パウロのアジア州での苦難

(第二コリント1:8) 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。

8) パウロがマケドニアへ、そしてテトスに会い、コリントの教会について報告を受け、励まされる

(第二コリント2:14) 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るという知識の香りを漂わせてくださいます。

パウロとコリントの教会との複雑な関係

9) 四回目の手紙： 第二コリントの手紙

マケドニアから書かれた パウロも謙り、自分の弱さをたくさん語り穏やかに書いている

10) 三ヶ月間コリントに滞在した

(使徒20：2-3) *そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシアに来て、そこで三か月を過ごした。*

ここからローマの手紙を書く。ローマ書のテーマは恵み。コリントの教会と和解し、平和な日々を過ごす中で恵み中心のこの手紙を書いた。

パウロとコリントの教会との複雑な関係

まとめ

コリントの教会に尊敬されなかったり、経済的に支えてもらえなかったり、口だけだと批難され続けたパウロ。しかし、それでも何度も訪問を繰り返し、四回も手紙を書き、テモテやテトスなどを助けに送った。トロアスでいい働きがあったにも関わらず、コリントの教会が心配でその働きをあきらめた。

これはパウロのキリストのような愛を表す。

パウロとコリントの教会との複雑な関係

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない 第一コリント13：4-8



パウロは自らこの聖句を自分の人生によってコリントの教会に表した。

コリントの教会との関係によってパウロが霊的に成長している様子が見られる。

第一コリントの信徒への手紙クラス
「十字架の言葉は神の力です」
第一コリント1：18

クラス5

パウロとコリントの教会との複雑な関係

13章： 愛の道

14章： 霊的な賜物を生かす

15章： イエスの復活の力

16章： まとめの言葉

パウロとコリントの教会との複雑な関係

1) 最初の訪問、教会の設立

50 A.D. から約一年半滞在した。

(使徒18：11) パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

2) 最初の手紙 (残されていない)

(第一コリント5：9) わたしは以前手紙で、みだらな者と交際してはいけないと書きましたが、

3) 二回目の手紙 第一コリントの手紙

4) テモテを代わりに送る

(第一コリント4：17) テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。。

影響はあまりなかったようです

5) 悲しませた訪問

(第二コリント2：1) そこでわたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。

6) 三回目の手紙： 厳しい手紙、又は涙の手紙

テトスが手渡しした。トロアスでテトスに会って報告を受ける予定だったが会えずに終わりとても不安で心配な状態

(第二コリント2：4) わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。。

(7：8) あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません

(2：12-13) わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていましたが、兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

7) パウロのアジア州での苦難

(第二コリント1：8) 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい

8) パウロがマケドニアへ、そしてテトスに会い、コリントの教会について報告を受け、励まされる

(第二コリント2：14) 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます

9) 四回目の手紙： 第二コリントの手紙

マケドニアから書かれた パウロも謙り、自分の弱さをたくさん語り穏やかに書いている

10) 三ヶ月間コリントに滞在した

(使徒20：2-3) そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシアに

来て、そこで三か月を過ごした。

まとめ

コリントの教会に尊敬されなかったり、経済的に支えてもらえなかったり、口だけだと批難され続けたパウロ。しかしそれでも何度も訪問を繰り返し、四回も手紙を書き、テモテやテトスなどを助けに送った。トロアスでいい働きがあったにも関わらず、コリントの教会が心配でその働きをあきらめた。これはパウロのキリストのような愛を表す。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない」 第一コリント 13：4-8

パウロは自らこの聖句を自分の人生によってコリントの教会に表した。

コリントの教会との関係によってパウロが霊的に成長している様子が見られる。

13章：愛の道

1節-3節 偉大な業、又は自分の身をかえりみない偉大な犠牲は必ずしも「愛」ではない。

この言葉はギリシャ語でアガペー 無条件な愛、キリストの愛を意味するもの。つまり利己的なものではない。自己満足ではない。相手のため、常に相手を重視するもの。

11-12節 今はまだ子供のよう、鏡を通じて見ているよう。つまり不完全な愛の理解。天国に行くと鏡を通してではなく、子供のように未熟な見方ではなく、完全な見方で見えるでしょう。

13節 残るもの 「メノ」永遠、続くという意味。この世では信仰、希望と愛が大切だけど、天国では信仰と希望は必要なくなるので、ずっと残るのは愛である

14章：霊的な賜物を生かす

1節-17節 異言を語るのと預言する

3節 預言する者は、人に向かって語っているので、人を造り上げ、励まし、慰める

4節 異言を語る者が自分を造り上げるのに対して、預言する者は教会を造り上げる

18節-40節 コリントの弟子たちは自分が与えられた賜物を見せびらかそうとしていて子供っぽかった。その結果みな同時に語り秩序のない集会になっていた。

34-35節 女性が黙っていればいいということではなく、従順な態度を示すべき

15章：イエスの復活の力

3節-8 最も大切なこと十字架の死（わたしたちの罪のため）、葬られ、三日目に復活したこと 聖書に書いてある通りに。その当時まだユダヤで 500 人に生きている証人がいた。

9節-11節 神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。パウロの動機：こらがポイント恵みに動機付けられること

16章：まとめの言葉

1節-7節 パウロの広い心。エルサレムの教会又はマケドニア、コリントの教会いつも心がけている。

13-14節 強い戒め 目を覚ましていなさい。

信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。何事も愛をもって行いなさい。

21節 自分の手で書いた

22節 主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい すべてが愛 十字架